

私とロータリー

寄稿

ロータリークラブは素晴らしい。ロータリーは敬愛に満ちている。それは出会いと存在である。ロータリークラブの特性は会員の一人一人が社会の一員であることと共に、ロータリアンであることを自覚し誇りを持つ

春日井
ロータリークラブ

北 健司



ロータリーの一員に誇り

間関係を形成する。互いに磨かれていく自分に、しかし崇高な理念を求め、毎週のミーティングは、尊重、喜びを感じない会員はい、日常の生活において、それ会員相互の理解と信頼を、し合うことは人間の尊厳、ないであろう。会員に上を、実践しようとする会員、深め、かけがえのない人、に通じる。社会で活躍し、下関係は全く存在しない、の豊かな人間性に触れる

ているから、あるいは事、教科書もない。しか、がえがないのである。業に成功しているからと、しそこには人として社会、毎週の例会こそが楽し、いって必ずしも完成され、の一員としてどうあるべ、みであり、有意義なので、た人間性は持ち合わせて、きかを意識している者同、ある。私はロータリーク、士が存在する。ラブの一員であることに、しかし、ロータリーの、毎週の例会出席を疑問、喜びと誇りを感じずには、中に身を置くことで教え、視する外部の声もある。いられない。

とき、共有
できるその
時間と空間
こそがかけ